

システム停止が業務に与える影響を 最小限にとどめることは、企業経営にとって重要な課題です。

CFIAがビジネスを救う



構成要素障害影響分析(CFIA: Component Failure Impact Analysis)はシステム構成要素の障害を想定して、格子分析と詳細分析によりお客様システムの現状を把握するための手法です。
システムが潜在的に抱える問題点が見える化、解決策の立案と実行を通して障害が業務に与える影響の最小化を図ります。

ビジネス継続のためのコスト・バランス、システムのダウン・タイムが及ぼす影響を考え、高可用性ソリューションの検討をされませんか？

システム増強などで導入当初と構成、運用方法などが変わってしまい、システムの完全性や弱点が不明確になっている。

システムやネットワーク構成上の弱点が明らかになります。

CFIAによる
分析

連続稼働は必須だが、システムが全停止した場合の業務影響(損失額、復旧手順・時間等)が正確には把握できていない。

構成要素ごとの障害によるシステム全体や業務への影響範囲が明らかになります。

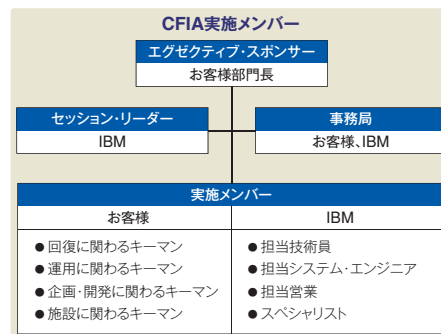
障害対応の体制や復旧手順および問題管理などの課題が明らかになります。

CFIAの特長と実施メンバー

お客様とIBMによるセッション形式の課題発掘型

ハードウェアやソフトウェア、さらには導入・構築・運用に精通したIBMのスペシャリストがセッションをリード

システムのライフサイクルに応じて、可用性向上を目指す継続的な検討と実装のモデル設計



解決策の実行

CFIAの実施内容と効果

実施内容

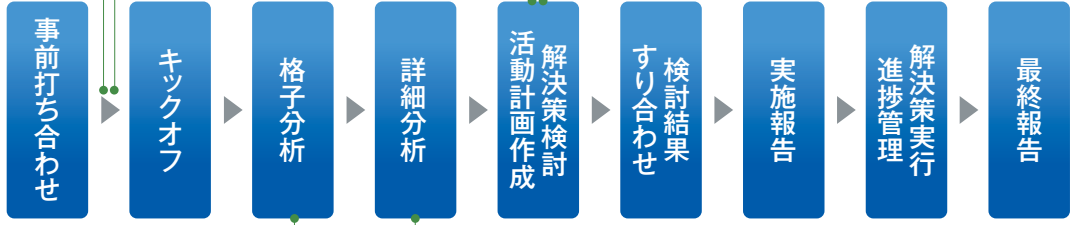
- バックアップ/回復機能の評価
- バックアップ/リカバリー・リスタート方法の検討
- 適用業務への影響度合の評価
- 各種手順書の整備
- 回復時間最小化のための改善策の検討
- 運用手順・体制の確立
- 適正な機器構成、ファイル配置の検討
- 教育・訓練計画の作成

実施効果

- 共通認識の熟成
 - システムの弱点・問題点
 - システム運用体制
- 障害対策の明確化
 - 構成、回復管理、データ保全
 - 障害対応訓練
- 可用性の向上
 - 業務が停止しない構成
 - 所定時間内回復の仕組み
 - 事業継続計画への取り組み

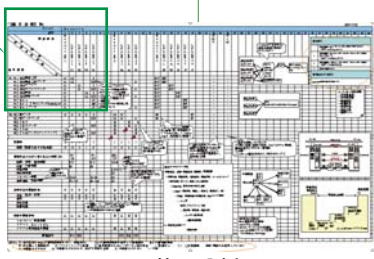
CFIA実施手順

お客様とIBMのシステム・エンジニア、技術員によるセッション形式により、システム環境、機械の内部構造や構成・機器接続配線等の障害時における影響の把握と改善策を、分析報告書にまとめます。



番号	構成要素	本体区画				
		1	2	3	4	5
回復台数	サーバーA号機		ポータルA	DB	認証A	認証B
回復目標時間						
適用業務						
認証サービスA	A				W	
認証サービスB	A					W
ポータルA	A	A	A			
ポータルB	A		A			
...						
影響度		1	3	2	3	3
業務停止または切替え見込み時間(分)						
対応手順書有無		○	○	△	○	○
回復手順書有無		△	△	△	△	△

- A: 代替構成要素を使用して業務続行
- W: 切り離して業務続行
- 影響度1: 影響範囲が全ユーザーに及び、影響が非常に大きい。回復に半日以上かかる
- 影響度2: 影響範囲が殆どのユーザーに及び、そのユーザー業務のすべてが停止する。回復に1時間以上かかる
- 影響度3: 影響範囲は一部のユーザーであり、そのユーザー業務の一部が停止する。回復に1時間以内の予測
- ○: 手順書などがある
- △: 手順書などがあるが、改訂や更新が必要



格子分析

障害機器/現象

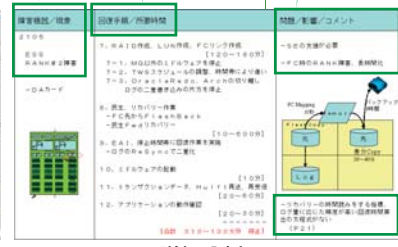
2105
ESS
RANK#2障害

回復手順/所用時間

問題/影響/コメント

-システム・エンジニアの支援が必要
-Flash Copy時のRANK障害、長時間化

-リカバリーの時間読みをする指標、ログ量に応じた精度が高い回復時間算出の方程式がない(手順書P21)



詳細分析

CFIA-Light

構成要素の一つであるバックアップ/回復機能に焦点をあてた簡易版をご用意しています。最も重要な適用業務(オンライン業務等)を一つとそのシステム/サーバーを選定していただき、可用性管理・ITサービス継続性管理の一部であるバックアップ/回復機能/回復手順について現行の対応を評価し、安定稼働に結びつく改善策をご提案いたします。

構成要素障害影響分析(CFIA)についての詳細情報は下記のWebサイトをご覧ください。
ibm.com/services/jp/index.wss/press_release/its/b1333861

お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員、または、ダイヤルIBM(☎0120-04-1992)へ。
 受付時間: 月～金9:00～18:00(祝日、12/30～1/3を除く)
 フリーダイヤルをご利用いただけないお客様は下記の電話番号をご利用ください。
 ダイヤルIBM 03-6220-8002(この場合、通話料金はお客様のご負担となります。)



日本アイ・ビー・エム株式会社
 〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
 12-09 Printed in Japan

●このカタログの情報は2009年12月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。
 ●記載のデータはIBM社内の調査に基づくものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はおお客様の環境その他の要因によって異なります。●製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。